

日本橋の装飾

日本橋は、東京を代表する橋にするため、土木技術者と建築家、美術家が設計の段階から共同でデザインを決めた日本で最初の事例です。

全体の意匠や装飾は、西洋風と日本風を組み合わせた独特のもので、建築家妻木頼黄によるものです。

日本橋の装飾を担当した人

つまき よりなか
妻木 頼黄（建築家）

山口県庁舎（現：山口県政資料館）
よこはましん ふとう そうこ
や横浜新埠頭倉庫（現：横浜赤レンガ倉庫）などを設計。

わたなべ おさお
渡辺 長男（彫刻家）

すがわらみちざね
菅原道真像（八王子市）などを製作。



ぎぼし
▲擬宝珠



きりん
▲麒麟像



からじし
▲唐獅子像

また、橋の上を彩る唐獅子像と麒麟像の製作者は、彫刻家渡辺長男です。

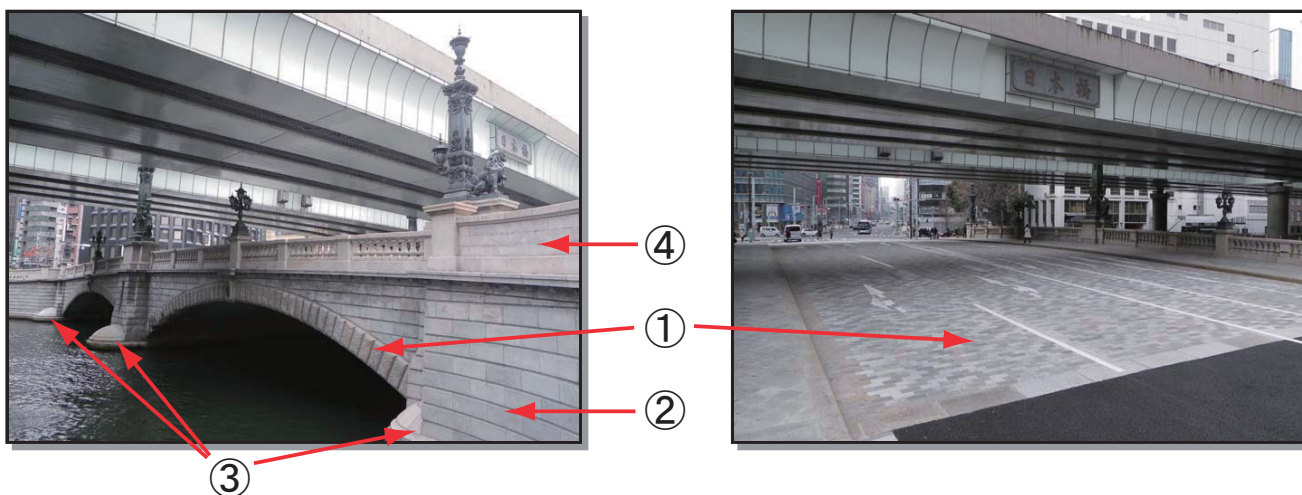
唐獅子像が、橋の四隅に配置されたのは、お寺や神社にあるように、橋を守ってくれるようお願いが込められています。この像は、イタリアの彫刻家ドナテッロのライオン像を参考にしているそうです。

麒麟は、中国の伝説上の神聖な動物とされ、通常、羽も鱗もありませんが、日本橋の麒麟像には鱗があります。これには、橋と地域がさらに躍進していき、願いが込められています。

日本橋に使われている石

石造りアーチ橋である日本橋は、花崗岩（御影石）という頑丈な石を用い、全部で9万切[※]以上の石材を組んでいます。コンクリートの表面に石を貼ったものではありません。

これらの石材は、4つの異なる地域、茨城県稲田（笠間市）、加波山（桜川市）、山口県黒髪島（周南市）、岡山県北木島（笠岡市）から取りよせられ、それぞれ使う場所が決められています。産地によって色や材質が微妙に違うため、橋をより美しく見せるためとともに、材料の特性を活かして適材適所に使い、機能を高めるための工夫がされています。



産地	使われているところ	数
①茨城県稲田	舗装、アーチ部分	41,405切 [※]
②茨城県加波山	側面部分	11,826切
③山口県黒髪島	橋脚・基礎部分（水中部分）	28,973切
④岡山県北木島	高欄部分	9,119切
	計	91,323切

※切：体積を表す尺貫法の単位 1切=1尺（約30cm）×1尺×1尺=約0.028m³

日本橋に使われたそれぞれの石材と同じものを使った建物には以下のようなものがあります。

- ①最高裁判所、日比谷第一生命ビル
- ②迎賓館、茨城県庁
- ③国会議事堂
- ④日本銀行本店本館、三越日本橋本店 など。